

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ9・10月-

～「初秋の自然観察とお茶会」～

9月24日(日)、園内の小さな秋を探す自然観察会からスタートしました。秋の野草を摘んで、一輪挿しを楽しみました。

お茶会は例年通りお琴の生演奏に聞き入りながら、手作りの和菓子をいただきました。

和菓子はサポーターの進藤さんによる心がこもった作品でした。ブルーベリーの酸味と甘さがよくマッチした一品を味わいました。



＜和菓子・「花山の秋」＞

～「秋を満喫 きのご観察ときのご鍋」～

10月15日(日)、秋も深まった「きのご森」を散策しました。お目当ては、天然のナメコやムキタケです。子供たちの参加も多く、にぎやかなイベントとなりました。

ササの葉を使って「チマキ」作りも体験しました。

当日は、自然保護課による「生物多様性」のお話があり、植物や動物、昆虫など自然を守る取り組みの大切さを勉強しました。



＜ササの葉で「チマキ作り」＞

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の太友さんのコーナーです

～冬に備えて食べまくる～



①メジロ



②アオゲラ



③ヒヨドリの幼鳥

①ミズキの実が黒く熟し食べごろです。メジロの親子が5羽ぐらいの群れで来て食べます

②アオゲラのオスが来ました。おいしくないのか、あまり食べずに飛び去ります。

③ヒヨドリの幼鳥は好物なのか何度も食べに来ます。

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

昆虫でない虫? ～ザトウムシ～

脚は髪の毛のように細くて長い。よく見かける虫でクモにそっくりなのでアシナガクモと呼ぶ人もいるがクモではない。座頭虫(ザトウムシ)という。名前の由来は「ざとう=座頭=盲目」で、盲人が杖を地面を探るようにして歩く姿に似ていることから付けられたと言われる。

年配の人たちには、勝新太郎が演ずる「座頭市」の「市」の歩く仕草を真似て見せるとすぐにガッテンする。ちなみにザトウムシもクモも脚は8本である。

「昆虫」の定義に「足は3対6本」とあることから両者とも昆虫とは言わない。昆虫以外の虫?と言う。(は)



＜ザトウムシ①＞



＜ザトウムシ②＞

まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～引っかかるのはヒトだけー …「サルトリイバラ」(サルトリイバラ科)～

晩秋のこの時期、雑木林で「サルトリイバラ」の実が目立ちます。つる性の半低木で木々に絡まりながら成長し、茎には鋭いトゲがあります。これで「サル」を捕るといことらしいのですが、根茎は生薬「山帰来」(さんきらい)として古くから利用されており、「おでき」や「吹き出物」に効果があるとされます。

さて「山帰来」の由来ですが、昔、梅毒になった男が山に捨てられ、この男がサルトリイバラの根をかじったら元気になり、山から帰ってきたという説話によります。

江戸時代の梅毒は想像以上に流行していたらしく、その治療薬は中国からの輸入生薬に頼っていました。記録によると、長崎での輸入生薬のうち約半分は「山帰来」といわれ、この量から患者数は数十万人～百万人規模と推定する説もあります。しかし、この生薬がどれだけの効果があったかは、今となっては不明です。「サルトリイバラ」の名は、「サルを捕る茨」の意味ですが、雑木林で引っかかるのはサルではなくて、服を着た人間だけでしょう・・・。(千葉)



＜サルトリイバラの実＞

科学館情報

きのご写真展開催中

科学館では毎年、「きのご観察会」のイベントに合わせて、きのごの写真を展示しています。写真は自然観察会の講師でお馴染みのHさんの提供によるものです。

ここで「こもれびの森」の「きのご」をたくさん見ることができます。一風変わった「きのご」もありますので、是非ご覧ください。



＜きのご写真展＞